例言

部隊ノ指揮法ト態度號令ニ依リ巧拙ヲ生スル源ナリ就中號令ハ部隊ノ志氣ヲ左右ス故ニ號令明活ナル時ハ統一ニ動ク活潑ナル夫レ音聲ハ天性ナリト雖トモ習練ノ好結果ヲ生スルモノナリ

第二章 聲音低調ヲ爲ス數月終ニ夜星霜ニ沐シ調聲ヲ爲ス數月終ニ稍見ル可キ成績ヲ得タリ然レトモ之ヲ記述授傳スルハ音聲ヲ筆記ニテ言ヒ現スモノナレハ難キト言フ可ケレトモ今此處ニ出來

18
5
9

得ル限リニ秘術ヲ書キ著シ同好ノ志ニ頒ツコトヽセリ

且ツ特別教育ノ修技者及教官ハ號令調聲ト手旗信號ノ演習ヲ共ニスルハ時間ノ都合上各隊各所ニ於テ多ク見ル所ナリ即チ夕食後營庭練兵場ニ立テ手信信號ノ演習ヲ爲シ薄暮手旗識別シ難キニ至リ號令調聲ニ移ルヲ普通トセルヲ以テ併セテ手旗信號ノ方法ヲモ記セリ

讀者余ノ意ヲ諒トシテ修學上ノ侶伴タルヲ得ハ幸甚

明治四十二年盛春

編者識

凡例

一本書中㊀㊁トアルハ口中ニテ一二ト唱フル間ダケ聲ヲ休ムコトヲ示シ㊀㊁トアルハ一二ト唱フル間タケ聲ヲ伸ス所ヲ示ス

二本書中豫令ト動令トハ行書ト楷書トニ區別ス

三本書中左ノ諸音ニ區別ス

平音トハ普通ノ音(尤モ他ノ音ト比較上ノミ)

强音トハ腹ニ力ヲ入レ最モ强ク音ヲ發ス

伸音トハア——イ——ト後ヲ引ク音

輕音トハ口中ニテ唱フルカ唱ヘザルカノ疑アル如キ輕キ音

號令調聲 手旗信號 教科書目次

第一編 號令

第一章 號令ノ定義……一
第二章 號令調聲ノ必要ナル理由……六
第三章 號令調聲ノ教授法……九
一 隊形……九
二 時間……一〇
三 教授法……一一

四　補助教育法……一三
第四章　號令發聲上ノ注意……一四
第五章　各種ノ號令法……一五
第一節　徒手教練……一五
第二節　部隊教練……三一
第二編　手旗信號
第一章　總則……四九
第二章　教授法……五一
第三章　基本演習……五三

第一節　不動ノ姿勢……五三
第二節　原畫……五六
第三節　符號……六六
第四節　イロハ記號……六九
第四章　應用演習……七一
第一節　綴文……七一
第二節　通信……七二
第三節　通信ノ例……七四
第四節　通信所……七九

目次終

號令調聲
手旗信號

教科書

第一編 號令

第一章 號令ノ定義

號令トハ部下ニ某動作ヲ命ズル簡單ナル言語ニシテ我陸軍ニ於ケル使用上ノ區分ニ二種アリ

操定ニ規定シタル號令

野外要務ニ說述シアル號令

特殊ノ技術ニ用ユル號令

(一)操定ニ規定シアル號令トハ歩兵騎兵砲兵工兵等ノ操典總則ニ說述シアルモノニシテ

(徒歩兵及徒歩教練ノ號令)ハ何等ノ場合ヲ問ハス同一ノ方法及活音ヲ以テ下サヽルヘカラス號令活潑ナルトキハ隨テ動作ヲ活潑ナラシム而シテ號令ヲ豫令及動令ニ分ツヘキ場合ニ在リテハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ活潑ニ短ク發唱シ其間ニ適當ノ時間ヲ存スヘシ

操典中豫令ハ草書ヲ以テ區別ス

(騎兵其他乘馬隊乘馬教練ノ號令)ハ豫令ハ明瞭ニ長ク動令ハ快活ニ其語尾ヲ稍長ク發唱ス可シ

故ニ號令ハ部隊ノ大小ニ應シ聲音ノ高低ヲ斟酌シ活音ヲ以テ下スヲ要ス

操典ニ掲ル號令及記號ハ必ス導用ス可キモノトス號令及記號ヲシテ其意ヲ悉サヽルニ至リ始メテ命令ヲ用ユ可シ

右(左)向け前へ　進メ

(二)野外要務令ニ記載シアル意味ノ號令詞

野外要務令第三ニ

高等司令官ノ軍隊統御上ニ關スル命令ハ筆記シテ下スヲ定規トス

命令ノ長キモノハ縱ヒ口達シ得ル時（例ヘハ集合シアル時）ト雖モ口達シテ筆記セシムルヲ可トス然レトモ簡單ナル事ヲ命シ或ハ各自ニ單一ノ任務ヲ授クル爲メノ命令ハ口達ヲ以テシ或ハ省略シテ單ニ號令詞ヲ用ユヘシ

右ノ單ニ「號令詞」ヲ用ユ可シトアルハ決シテ操典ニ規定シアル草書楷書ノ號令ノ意ニ非スシテ豫備隊　前へ

彼ノ高地迄背進

等ノ類ニシテ簡單ナル命令ヲ大聲ヲ發シテ恰モ操典ニ規定シアル號令的ノ言語ヲ以テ下ス命令ナリ寧ロ兵卒ニハ必要ナク指揮官ノミニ必要ニシテ指揮官ハ此號令詞ニ依リ列兵ヲ操典ニ示セル號令ヲ以テ引率スルモノナリ

操典ノ號令及記號ニシテ其意ヲ悉サヽルニ至リ始メテ命令ヲ用ユ即チ此命令ト一致スルモノナリ

(三)特殊技術ニ用ユル號令

劍術體操工作馬術等ニ用ユル號令ハ略ンド操典ノ號令ト同

一ニシテ約束的命令詞ナリ

（教範類ニ一々説明シアレバ茲ニ再説セズ）

右ノ如ク三種ノ區別ハアレトモ發唱法ニ就テハ略ンド同一要領ニシテ號令術ヲ研究セント欲セバ操典ニ規定シアル號令ニ就テ調聲セバ他ハ應用シ得ルモノトス

第二章　號令調聲ノ必要ナル理由

號令ノ必要ナル事ハ前章ニ略記シタレトモ此處ニ尚詳述セントス

號令ノ拙ナルニ數種アリ「聲音ノ立ザル者」「節度ノ拙ナル者」「言語ノ不明ナル者」等アリ

聲音ノ立サル者ハ大部隊ノ指揮ニ困難ナルト大風又ハ砲煙彈雨ノ中ニテ號令ガ部下ニ達シ能ハザルノ不利アリ

節度ノ拙ナル者ハ部下ノ運動不快トナリ部隊ノ運用何ントナク拙劣ナル如キ外見ヲ生ズ可シ

言語不明不活潑ノ者ハ部下ノ動作快活ヲ欠キ部隊整ハズ軍隊ノ威信ヲ欠クニ至ル

右ノ如キ不利アルヲ以テ若シ夫レ如何ニ秀才ナル能力ヲ有シ操

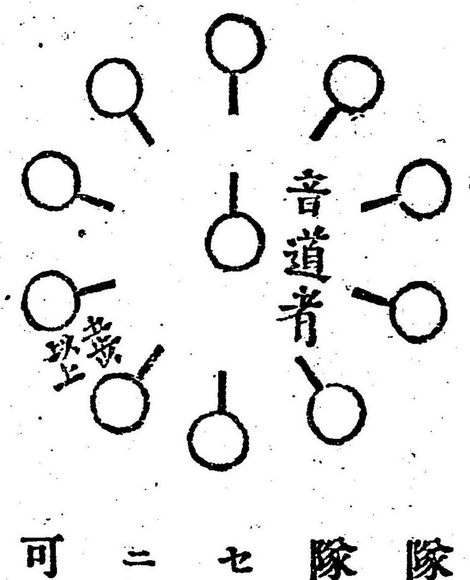
典要務令ニ明智ヲ有シ統御術ニ長シアルトモ號令ノ拙劣ナルニ至テハ全ク部下ニ對シ一大美觀ヲ失フモノ故練習ニ日ヲ積ミテ明活ナル號令ヲ下シ得ルノ技術ヲ研究セザル可ラス

天性聲低キ者ト雖モ號令調聲ヲ以テ聲帶(聲ノ發スル咽喉ノ器)ヲ發育セシメテ聲ヲ大ニシ節度拙ナル者モ種々工夫ヲ爲シテ節度ノ良好ヲ修得スルヲ得ルモノナリ

故ニ號令調聲ハ軍人トシテ少クモ一部ノ兵員ヲ引率ス可キ任アル上等兵以上ニ最モ必要ナル術科ノ一部ナリ宜シク習練セザル可ラズ

第三章　號令調聲ノ教授法

(一)隊形



隊形ニ就テハ大ナル要求ナシ如何ナル隊形ニテモ可ナレトモ各個ノ聲音ノ合セザルヲ可トシ又一音導ニ從テ一同之ニ和唱スル時ハ二歩以上ニ開列スルヲ可トス停止間又ハ前進停止ノ號令及基本演習ヲ爲ス時ハ圓陣ヲ作リ各隣兵ノ間隔五六歩ナルヲ便ト

ス

應用演習ノ內轉回右轉回ノ號令ヲ爲サシムルニハ修技者ヲ行進セシメテ一ノ號令官ヲ設ケ互ニ廻シ號令ヲ取ルモノトス

(二)時間

號令調聲ハ上等兵候補者一年志願兵士官候補生等ニ最モ必要ナル演習ナレトモ是ガ爲メ多クノ時間ヲ費スコト能ハザルナリ

故ニ毎日夕食後三十分位ヲ施行シ漸次修熟ノ度ニ達スレバ一週二回若クハ三回ニシテ其時間一回約十五分ヨリ三十分ヲ爲セバ可ナリ多クハ器械體操手旗信號等ノ演習ト共ニ其前後ノ時間ヲ利用セバ可ナリ

(三)教授法

左ノ種類ノ法ニ依リ教授スルヲ要ス

傳聲　教官要領ヲ說明シ自ラ發唱シ後各修技者ヲシテ一時ニ發唱セシム

各個發聲　傳聲ノ後果シテ各人ガ要領ヲ得タルヤ否ヲ檢スル爲メ各個順序ニ唱ヘシム

集合發聲　單ニ練習ノ爲メニテ其方法傳聲ト同シ只教官ニ

修技者ノ一人ヲ撰ブ

自習　列ヲ解散シ各人ニ問題ヲ與ヘ又ハ隨意ノ號令ヲ發唱セシム

最初ノ教育ハ傳聲ヲ以テシ次テ各個發聲ヲ以テ要領ヲ檢シ後ニ練習ヲ重ル爲メ集合發聲ヲ爲サシム

時々倦怠ヲ防グ爲メ各人發聲ノ自習ヲ命ズルヲ利益トス

應用演習トシテハ互ニ修技者ヲ列兵トシ一名ノ號令官ヲ撰拔シ問題ヲ出シテ其問題ニ應スル號令ヲ發唱セシメ列兵ニ運用ス

但實兵指揮ニ非ズシテ單ニ行進間ノ諸運動ノ步ト動令ノ關係ヲ修得セシムルニアリ

(四)補助教育法

號令調聲ノ補助教育法トシテハ軍歌最モ効力アリ

軍歌ハ發聲ノ節度ヲ調和シ聲帶ヲ發育セシムルモノニシテ其外ニ單純ナル號令調聲ヨリ寧ロ趣味アレバ修技者ヲシテ倦怠セシメザル故ニ單純ナル號令演習ノ前後ニ調聲ノ補助トシテ之ヲ用ヒナバ効力大ナルモノナリ

第四章　號令發聲ノ注意

號令ヲ發聲スル時ハ左ノ諸注意ヲ要ス

1　嚴正ナル姿勢ヲ以テ發聲スルヲ要ス

2　不動ノ姿勢ニテ發聲スル時ハ兩踵ヲ擧ゲ又ハ手ヲ動シ體ヲ振動スル等ノ所爲アル可ラズ行進間ニ下ス時ハ步調ヲ亂サヽル樣ニ發令スベシ

3　部下ノ面前ニテ發令スル時ハ隊列ニ注目シアルベシ

4　大風ノ時ハ風上ニ立テ發令スベシ

第五章　各種號令法

第一節　徒手教練

(一)　◎不動ノ姿勢

號令　氣を着け

音ハ「キヲツケ」ナレトモ極キノ音ヲ輕ク發シツノ音ヲ强ク發スレバ態裁良シ

然レトモ大隊以上ノ部隊ニ對シテハ「キヲツケ——」ト發スヲ可トス

(二) ◎休憩

號令　休め

音ハ「ヤスメ」ナレトモ**ヤ**ヲ輕ク**ス**ヲ並ニ**メ**ヲ強ク發音スベシ

(三) ◎轉回

號令　右向け　右

音「ミギムケ　ミギ」ナレトモ　**ミ**ヲ最モ輕ク**ギ**ヲ最モ強ク動

令ノ「**ミ**」ギノ**ミ**ハ殆ント口ノ中ニテ唱ヘ**キ**ヲ強ク唱フ

ミギムケ　(一)(二)(三)(一)(二)ミギ

號令　左向け　左

音「ヒダリムケ　ヒダリ」ナレトモ　**ヒ**ヲ輕ク**ダリ**ヲ最モ強ク

ムケヲ普通ニ唱フ

動令ノ「ヒダリ」ハヒヲ口中ニテ唱イダリヲ最モ早ク強音ニ唱フ

號令　半ば右(左)向け　右(左)

音「ナカバミギムケミギ」ナレトモ「ナカバ」ノ三音ハ明瞭ニ強

弱ノ度ナク唱フ其他ハ前項ノ右(左)向ケ　右(左)ニ同シ

(四) ◎右轉回

號令　廻はれ　右

音「マワレ　ミギ」ナレトモ　マハ普通ニワハ最モ輕クロノ中ニテ「レ――」ト伸シ　動令ノミギノギヲ強ク發唱ス

マワレ ㊀㊁㊀㊁ミギ

(五)　◎行　進

號令　前ヘ　進メ

音「マイヘ　ススメ」ナレトモ　マハ普通ニシテイハ早ク輕クヘーヲ伸ス　動令ノ「ススメ」ノ「スス」ハ最モ活潑ニ「ススメ」ヲ「ヲイ」ト唱フル人アレトモ動令ナレバ何レニテモ可シ但「ホイ」ハ面白カラズ

マイヘ ㊀㊁㊀㊁ススメ　マイヘ ㊀㊁ヲイ

(六)　◎停　止

號令　分隊　止レ

音「ブンタイトマレ」

ブヲ平音ニテンハ短ク強クタイト伸ストハ輕クマレヲ強ク短ク

ブンタイ ㊀㊁㊀㊁トマレ

(七)　◎駈　歩

號令　駈歩　進メ

音「カケアシススメ」

「カケアシ——」トシーヲ伸ス「ススメ」ノスハ平音次ノスハ輕クメト活潑ニ唱フ

カケアシ㊀㊁㊀㊁ススメ

（八）◎足踏ミ

號令　足踏み　進メ

音「アシブミ　ススメ」

アシハ平音ブハブニテモ可ナレトモブノ方言ヒ良シススメ

（九）◎行進間轉回

號令　右、左、向け前へ　進メ

音「ミギムケマイヘススメ」

ミハ輕クギハ強クムケ平音マ平音イハ最モ輕クヘート伸スス

スメハ前ト同シ

（十）◎行進間右轉回

號令　廻はれ右へ　止レ

音「マハレミギヘー　トマレ」

マハ平音ワハ最モ輕ク口ノ中ニテ唱ヘ「レ——」ト伸シミハ稍

輕クギハ強ク「ヘ——」ト伸ス「トマレ」ノトハ輕クマレヲ共

ニ短ク活音ニテ下ス　マワレ㊀ミギ㊀マワレ㊀㊀㊀㊀トマレ

號令　廻はれ右前へ　進メ

音「マワレミギマイヘースススメ」

「マワレミギ」ハ前項ト同シ「マイヘ——」ノ**マ**◎ハ平音**イ**◎ハ輕ク

「ヘ——」ヲ伸ス　**ス**◎ハ平音次ノ**ス**◎ハ輕ク　**メ**◎ハ強ク平音

マワレ㊀ミギ㊀マイヘ㊀㊀㊀㊀スススメ

注意動令ハ右足ノ地ニ着キタル時ニ令セバ左足ノ地ニ着キタル時廻轉シ又左足ノ地ニ着キタル時ニ令セバ右足ノ地ニ着キタル時ニ轉回スルニ至ル

◎銃ノ操法

(十一)　◎擔　銃

號令　擔へ　銃

音「ニナヘーッッ」

ニ◎**ナ**◎平音**ヘ**◎㊀㊀ト伸ス　**ッ**◎ハ輕ク口ノ内ニテ次ノ**ッ**◎ハ強ク唱フ

ニナヘ㊀㊀㊀㊀ッッ

(十二)　◎捧　銃

號令　捧け　銃

音「ササゲーッツ」

ノ始ノ**サ**ハ稍輕ク**サ**ハ強ク**ケ**ハ「ゲ——」ト伸ス　ッツハ前ト同シ

ササゲ(一)(二)(一)(二)ッツ

(十三)　◎立　銃

號令　立て　銃

音「タテーッツ」

タハ平音**テ**ート伸ス（**タ**ノ次ニ**ア**ヲ用ユル者アレトモ聞キ苦シ）**ツ**ハ輕ク次ノ**ツ**ハ短ク強ク故ニッツヲ**ツ**ト響ス

◎銃ノ着脱劍

(十四)　◎着　劍

號令　着け　劍

音「ッケエケン」

ツケ**ト**平音ニテ**エ**ハ有ルカ無シ極ク輕ク**ケ**ン**ト**縮メテ唱フ

ツケェケン

此號令ハ豫令ノミ動令ナシ

(十五)　◎脱　劍

號令　脱れ　劍

音「トレエケン」

トレエケン

トレト平音ニテ**エ**ハ有ルカ無シノ輕音**ケン**ト縮メテ唱フ

(十六) ◎裝塡及抽彈

號令　彈藥を込め

音「タマヲコメ」

タマヲコメ

タマ平音**ヲ**ハ有ルカ無シニ輕ク早クコメハ稍強ク故ニ一寸聞ケバ「タマコメ」ノ如ク聞ユ

號令　彈藥を抽け

音「タマヲヌケ」前ト同一ナリ

タマヲヌケ

(十七) ◎射擊ノ姿勢

號令　立射の構へ　銃

音「タチウチノカマヘッツ」

タチト平音ニ共ニ唱**ウチ**ノト平音ニ共ニ唱ヘ**カマ**ト平音ニテ**ヘー**ト伸ス　**ツ**ハ輕ク次ノ**ツ**ハ強ク響ク

號令　膝射の構へ　銃

音「ヲリシキノカマヘッツ」

ヲリシキノカマヘート伸ス　ツツハ前ニ同シ

號令　伏射の構へ　銃

音「ネウチノカマヘッツ」

ネト平音ヨリ稍強クウチノト續ケテ平音ニカマト平音ニヘート伸ス　ツツハ前ト同シ

ネウチノカマヘ㊀㊁ツツ

號令　擊方止め

音「ウチカタヤメ」

ウチカタト續テ縮メテヤメ㊀㊁ト伸スメハ強ク

ウチカタヤメ㊀㊁

(六)　◎行進シアル時膝(伏)姿

號令　膝姿

音「ヲリシケ」

ヲトリヲ輕ク早クシヲ平音ケヲ強ク故ニ一寸聞クト「シケ」ト聽ユ

早ク

ヲリシケ

號令　伏姿

音「フセ」　フヲ稍輕クセヲ強ク唱フ

號令　起て

音「タテ」　タテ平音ナレトモ早ク強ク唱フ

（十九）◎突擊

號令　突擊に進め

音「トツゲキニ　ススメ」

トハ平音ツハ稍強クゲキト平音ニト伸ス「ススメ」ハ前ノ如シ

トツゲキニ（一）（二）ススメ

第二節　部隊教練

（一）◎番號

號令　番號

音「バンゴー」平音

（二）◎整頓

號令　嚮道（何）歩前へ

音「キヨウドウサンポマイヘ」平音

號令　左（右）へ準へ

音「ミギヘナラエ」

ミヲ平音ギハ稍强ク「ヘー」ト伸ス二句過テナヲ輕ク（ラエ）
ヲツツメテ（ヒダリヘナラエ）ヒヲ平音ダハ稍强ク「リヘー」
ト伸ス二句過テナヲ輕ク（ラエ）ヲツツメテ

ミギヘー㊀㊁ナラエ

ヒダリヘー㊀㊁ナラエ

號令　直る

音「ナヲル」ナヲ輕クヲルヲ短クナヲルト唱ス

（三）◎叉銃及解銃

號令　組め銃

音「クメーツツ」

此號令ハ極ケンドンニ唱スルモノニシテ

クハ平音「メー」ハ伸シツツノ初メノツハ輕ク後ノツハ强クス

號令　解け銃

音「トケーツツ」

前ト同一要領ニシテトハ平音「ケー」ハ伸シツツハ前ト同シ

（四）◎斜行進

號令　斜めに右（左）へ　進メ

音「ナナメニミギヘースススメ」

ナナト平音ニテメニト縮メニヲ輕クミモ輕クギハ強ク「ペ」㊀㊁ト伸ス

スハ強ク次ノスハ輕ク次ノ如クス

ナナメニミギヘ㊀㊁㊀㊁ ススメ

(五) ◎方向變換

號令　右(左)に方向を換へ　進メ

音「ミギニムキヲカヘ」ススメ

ミヲ輕クギヲ強クニヲ輕クムキト縮メヲヲ早ク「カペー」ト伸ス「ススメ」ハ前ノ通リ

ミギニムキヲカヘ㊀㊁㊀㊁ススメ

(六) ◎伍々方向變換

號令　伍々左(右)へ　進メ

音「クミグミヒダリヘススメ」

クハ平音ミモ平音グハ強クミハ平音ニテ「クミグミ」ト縮メテ速クヒハ輕クダハ強クリペート伸ス「ススメ」ハ前ノ通リ

クミグミヒダリヘ㊀㊁㊀㊁ススメ

(七) ◎横隊ヨリ側面縱隊ニ及側面縱隊ヨリ横隊ニ移ル

號令　右、左、向け伍々　左(右)へ　進メ

「ミギムケクミグミヒダリヘススメ」「ヒダリムケクミグミ
ダリヘススメ」「ミギムケクミグミミギヘススメ」「ヒダリムケ
クミグミヨギヘススメ」「ミギムケ」又ハ「ヒダリムケ」ハ前ニ
説明シアリ

「クミグミミギ」又ハ「クミグミヒダリヘ」(六)ノ通リ
而シテ其音間隔ハ次ノ如シ

右向ケ㊀伍々左ヘ㊀㊁㊀㊁スススメ

(八) ◎停止又ハ行進セル側面縦隊ヲ同方向ニ横隊ニ移ス

號令　左(右)ヘ並ヒ　進メ

音「ヒダリヘナラビ　ススメ」

ヒ◎ハ輕ク◎ダ◎ハ強ク◎リ◎ヘ◎平音ニテ縮メ◎ナ◎ハ輕ク◎ラ◎ハ平音◎ビ◎ト
伸ス「ススメ」前ノ通リ

ヒダリヘナラビ㊀㊁㊀㊁スススメ

(九) ◎途歩

號令　途歩

音「ミチアシ」　◎ミ◎チ◎ト平音◎ア◎ハ稍々伸音◎シ◎ヲ平音

ミチア㊀シ

(十) ◎散開

號令　散れ

音「チレー」　チ◎レ◎平音只レ◎ーヲ稍長ク

注意　基準伍ヲ示シタル後號令ス

「一番基準」㊀「散レー」基準伍ヲ示スト散開ノ間ニ一句ノ餘地ヲ存スヲ可トス

號令　其場に散れ

音「ソノバニチレー」　ソノバニチレー平音

注意　前項ニ同シ

號令　左へ散れ

音「ヒダリへチレー」

號令　右へ散れ

音「ミギへチレー」

號令　其場に左へ散れ

音「ソノバニヒダリへ㊀チレー」

號令　其場に右へ散れ

音「ソノバニミギへ㊀チレー」

(十一)　◎散兵ノ運動

號令　前へ

音「マイヘー」

注意　一般ニ稍長ク恰モ「前ヘ進メ」ノ豫令「前ヘ」ト同シ

號令　後ヘ

音「アトヘー」

アヲ短クトヲ強ク「ヘ」ト伸ス

號令　斜めに右(左)へ

音「ナナメニミギエー」

ナナメト平音ニヲ輕クミモ亦輕クギハ強ク「エ」ト伸ス

號令　駈歩　(行進間)

音「カケアーシ」

カケト平音「ア」ト伸シシヲ短ク

號令　疾駈　(行進間)

音「ハヤガケー」

ハヤガト平音「ケ」ト伸ス

號令　止れ

音「トマレー」

トマト平音「レ」ト伸ス

號令　疾駈　前へ　(停止間)

音「ハヤガケ　マイヘー」

ハヤガ◎ト短ク縮メテ「ケ㊀」ト稍伸ス

ハヤガケ　不定　マイヘー——

此「ハヤガケー」ト「マイヘー」トノ間ノケーハ散兵前進ノ準備ヲ待テ「マイヘー」ト號令ス

號令　駈歩　前へ

前述ト同一ナリ

(十二)　◎射　撃

射撃ノ號令ハ左ノ順序ニ示ス

第一　目　標

第二　姿　勢

第三　照　尺

第四　速　度

(1)　目標ノ指示號令

別段ノ法式ナシ活音明瞭ニ示ス可シ

例令前面ノ密集部隊

(2)　姿勢ノ指示號令

各個教練　ニ依ル

(3) 照尺ノ指示號令

百(ヒヤク) 二百(ニヒヤク) 三百(サンビヤク) 四百(ヨンヒヤク) 五百(ゴヒヤク) 六百(ロクヒヤク) 七百(ナナヒヤク) 八百(ハツピヤク) 九百(キユーヒヤクセン) 千

ト發音ス

米突(メートル)「メ㊀ト」ト稱シルハ舌ヲ卷キ過クル時ハ聞苦シルト輕ク卷キ舌ニ唱フベシ

「ヨンヒヤクメートル」ノ如シ四百米突

混用照尺ノ場合ハ兩距離ノ間隔一音ヲ距ツ

「ヨヒンヤク㊀ゴヒヤクメ㊀トル」四百五百米突

(4) 速度

(イ) 一齊射擊

號令 「狙ヘ」

音「チヘ」 ネ平音「ヘー」ト伸ク 伸ク程度ハ速度遲キ時ハ長ク速度速ナル時ハ短ク成ル可ク發射ノ號令(擊)(テ)ニ近ク

迄伸ス

號令 擊

音 テ 强ク

ネヘ不定㊀㊁テ

(ロ) 各個射擊

號令　並ニ撃カカレ

音「ナミニウチカヽレー」

ナミ平音ニハ輕クウチカヽ平音「レ㊀㊁」ト伸ス

號令　急キ撃カカレ

音「イソギウチカヽレー」

イソギ平音ウチカヽ平音「レ㊀㊁」ト伸ス

（ハ）速度ノ規正

號令　徐ニ

音「シズカニー」

シズカト平音「ニ㊀㊁」伸ス

號令　活潑ニ

音「カッパッニー」

カハ平音ツハ輕クパヲ強ク短クツモ亦強ク「ニー」ト伸ス

注意　散兵線ノ射撃ハ

（第二姿勢）ノ指示ヲセズ

（二）射撃ノ中止及一時中止

號令　撃方止メ

音「ウチカタヤメ」

ウチカタヤ ト平音ニテメ ト強ク伸ク

ウチカタヤメ ㊀㊁

號令　撃方待テ

音「ウチカタマテ」

ウチカタ ト平音ニテマテ ト強ク伸ス

ウチカタマテ ㊀㊁

第二編　手旗信號

第一章　總則

手旗信號ハ赤白ノ二旗ヲ用ヒテ通視シ得ル遠隔セル二箇所ニ置テ片假名及記號ヲ以テ通信文ヲ往復スルモノニシテ以テ戰時ニ於ケル通信勤務ノ一部トシテ必要ナル課目ナリ

信號
- 電氣
  - 電話
  - 電信
  - 無線電信
- 視信
  - 手旗信號
  - 單旗信號

通信法
- 聽信號
  - 喇叭（回光又ハ發光信號）
  - 小笛
- 傳令
  - 徒歩
  - 乘馬
  - 自轉車
  - 自働車
- 輕氣球
- 傳書鴿

而シテ手旗信號ハ其距離速度ハ電信電話等ニ及バズト雖モ設備旗單簡ナル故多ク用ヒラルヽモノトス

而シテ之ヲ使用スル兵種及場所左ノ如シ

- 歩兵
  - 野
  - 重
- 砲兵　工兵　重ニ之ヲ使用ス

一　海陸ノ通信

二　斷絶地多クアリテ彼我開豁ノ二箇所間

三　急峻ナル山頂ト麓ヨリノ通信等ニ用ユ

○第二章　教授法

此演習ヲ行フニハ左ノ順序ニ從フヲ可トス

基本演習（原畫　符號　假名）

應用演習（綴文　通信）

文字ヲ精確明瞭ニ表示セシムルニハ先ツ兵卒ニ原畫及符號ヲ表示スルコトヲ習熟セシメ次ニ文字ヲ畫スルコトヲ教ユベシ

此操作ヲ反覆施行シ教官自ラ文字ヲ唱ヘ或ハ文字ヲ畫シ兵卒ヲシテ直ニ應答シ毫モ躊躇スルコトナキニ至ラシムヘシ

兵卒已ニ前條ノ操作ニ習熟セハ教官ハ自ラ極メテ簡單ナル通信文ヲ送ルカ或ハ一兵卒ヲシテ送信セシメ列兵ヲシテ受信セシム斯ノ如クシテ通信法ノ要領ヲ會得スルニ至レハ二名ヅヽ對向シテ通信ヲ行ハシムベシ

此通信法ハ初メハ成ル可ク近距離ニテ且簡單ナル通信ヲ行ハシメ兵卒習熟ノ度ニ從ヒ漸次距離ヲ增加シ且通信ヲ複雜ナラシメ遂ニ遠距離ニ於テ長文ノ通信ヲ迅速確實ニ通信シ得ルニ至ラシムヘシ

○第三章　基本演習

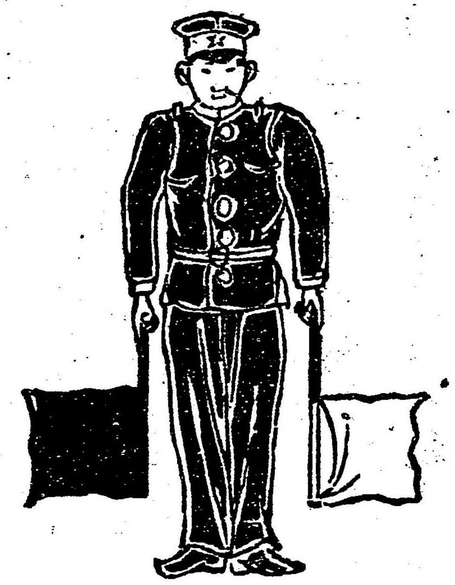
○第一節　不動ノ姿勢

手旗ヲ携帶シテ不動ノ姿勢ヲ爲スニハ左ノ如クスベシ

赤旗ヲ右手ニ白旗ヲ左手ニ持ツ（旗ヲ持ツニハ食指ヲ伸シ旗桿ノ末端ヨリ約十五珊知米ニ食指ヲ添ヘ旗桿末ヲ掌ヨリ上臂ノ内

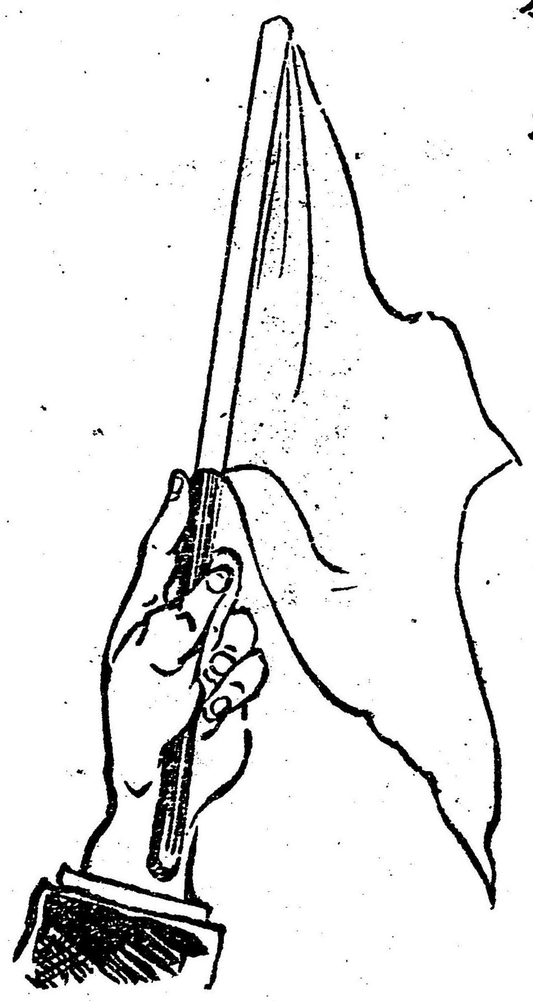
側ニ當ル如ク確實ニ握ル）而シテ兩腕ヲ垂直ニシ旗ヲ袴ノ縫目ニ添テ位置セシム

（第一圖）



（第二圖）

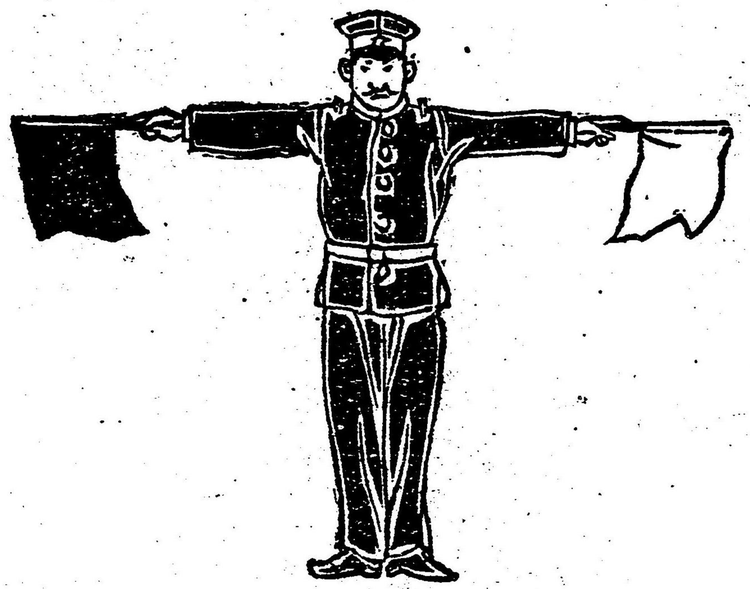
旗ノ持方



○第二節原書

(一) 一 原畫

字形



(第三圖)

兩手ヲ水平ニ爲シ體操教範第二十七其二ノ如クス

舉動 一

此時旗先キノ下カラザル如ク又兩旗ガ前後セザル如ク畫ク

(二) 二 原畫

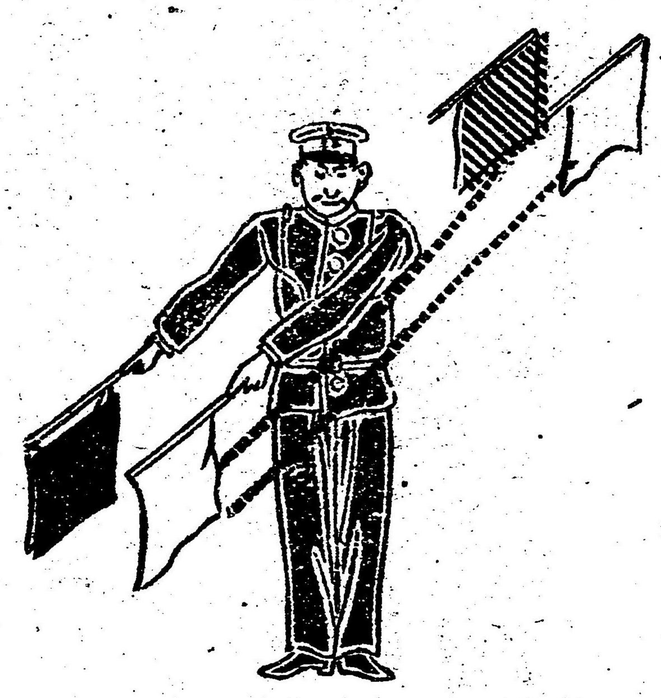
右手ヲ垂直ニ擧グ此時右手ハ體操教範第二十七其三ノ要領ニ同シ 舉動一

字形

(第四圖)

(三) 三 原畫

八字形



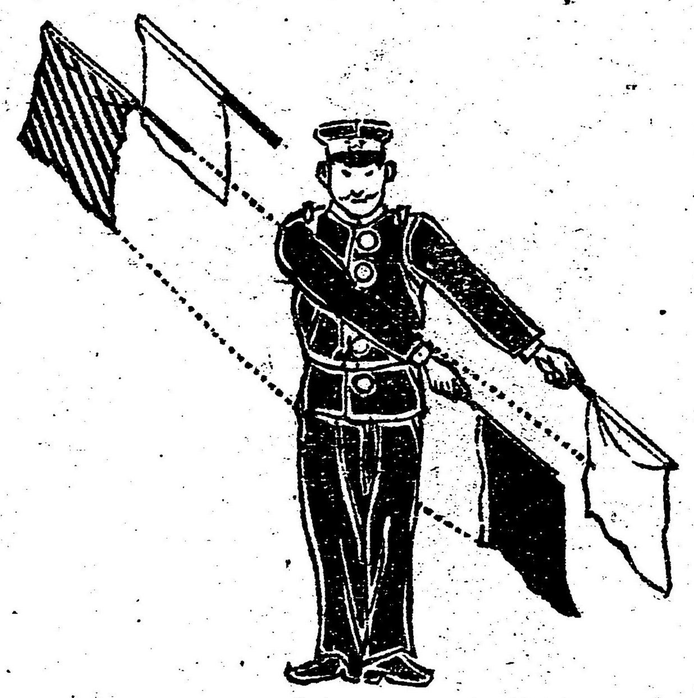
(第五圖)

兩手ヲ(右手上左手下)左方斜ニ四十五度ノ仰角ニ着ク　舉動一

兩手ヲ(右手上左手下)右方斜ニ四十五度ノ俯角ニ振リ下ク　舉動二

(四) 四 原畫

八字形



(第六圖)

兩手ヲ右方(左手上右手下)四十五度ノ仰角ニ擧ク　舉動一

兩手ヲ左方(左手上右手下)斜ニ四十五度ノ俯角ニ振リ下グ　舉動二

（五）五　原畫

兩手ニテ頭上ニ交叉ス但シ右手ヲ前ニシ左手ヲ後ニス

舉動一

字形

（第七圖）

（六）六　原畫

右手ヲ斜右四十五度ノ俯角ニ出ス

舉動一

字形

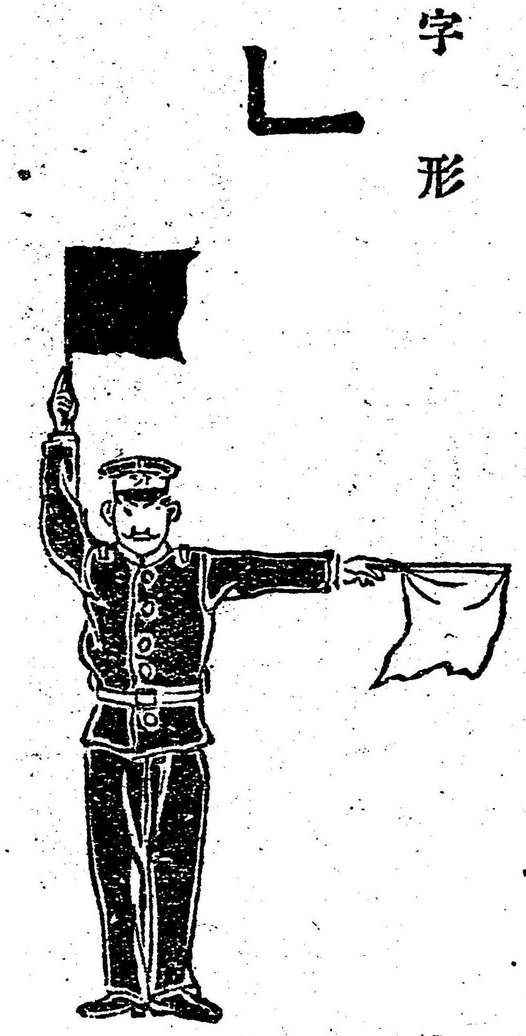
（第八圖）

(七) 七 原畫

右手ヲ垂直ニ擧ゲ左手ヲ水平ニ伸ス　擧動一

即チ右手ハ二原畫左手ハ一原畫ト同シ

字形

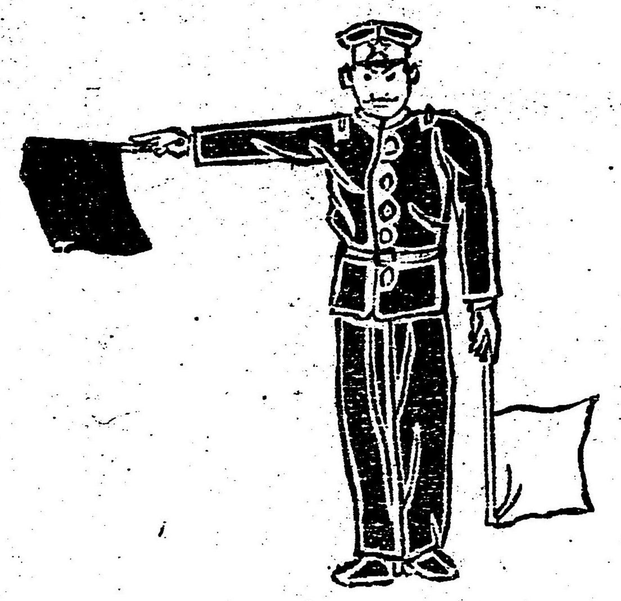


(第九圖)

(八) 八 原畫

右手ヲ水平ニ出シ左手ヲ垂ル

字形



(第十圖)

恰モ不動ノ姿勢ニ在テ右手ヲ第一原畫ノ如クス

擧動一

（九）九 原畫

（第十一圖）

右手ハ第八原畫ノ如ク水平ニ出シ左手ヲ右方四十五度ノ俯角ニ出ス　擧動一

字形

（十）十 原畫

（第十二圖）

兩手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧グ　擧動一

演習上ノ注意

(十一) 原書演習上ノ注意

(一) 原書ハ片假名信號ヲ綴ル基礎ナレハ速ニ且確實ニ書クヲ要ス

(二) 旗ハ常ニ腕ト上下左右ニ角度ヲ作ル可ラズ常ニ一直線ナルヲ要ス

(三) 旗ハ桿ニ卷キ付カザルヲ要ス

○第三節 符號

毎字ノ間節	
A	
	兩手ヲ前ニ垂レ旗ヲ交叉ス

濁音	半濁音	起信	消信
B	C	D	E
左手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ケ一二回振ル	右手ヲ四十五度ノ仰角ニ擧ケ一二回振ル	兩手ヲ同時ニ竝行ニ上下ニ振ルコト數回	兩手ヲ以テ前面ニ交叉スルコト數回

句切	應信	受信	止信
I	H	G	F
左手ヲ垂レ右手ヲ垂直ニ擧ク	兩手ヲ擧ケ竝行ニ左右ニ振ルコト一二回	兩手ヲ交モ垂直ニ擧クルコト數回	兩手ヲ垂直ニ擧クルコト二三秒

句切信	消
J	
右手ヲ擧ケ左右ヘ振ルコト數回	

○第四節　イロハ記號

イ	ロ	ハ	ニ	ホ
三、二	七、八	○	一、一	一、二、○
四	二、五	七、二	二、二	九、四

ヘ	ト	チ	リ	ヌ
二、七	一、九	二、九	八、三	八、一、二

ル	ヲ	ワ	カ	ヨ

イロハ記號

タ		ナ		ノ		ケ		ア	
三、三、五	ノ	一、三	ノ	三	ノ	七、六	ノ	九、六	ノ

レ		ラ			フ		サ	
七	L	五、九	フ		九	フ	二、二、二	一

ソ		ム		ク		コ		キ	
五、三	ノ	七、五	L	三、三	ノ	八、一	一	一、一、二	一

ツ		ウ		ヤ		エ		ユ	
五、五、三	ノ	五、二、九	フ	八、四	丶	一、六、一	ノ	九、一	フ

チ				マ		テ		メ	
九、二、一	フ			九、五	フ	一、一、六	ノ	三、五	ノ

ミ		セ	
一、一、二	二	九、七	フ

シ		ス	
五、七	L	二、二、五	一

ン	
五、一	ノ

ヒ	
一、七	L

モ	
一、一、七	一

伸音ヲ表スニハ二原畫ヲ以テスルモノトス例ヘハ左ノ如シ

ア — キ — ス —

○第四章　應用演習

○第一節　綴文

イロハ記號ヲ了解シテ暗記スルニ至レバ各修技者ハ自ラ「ハヤク」「ヨロシ」「マテ」ナル單簡ナル文ヲ手旗ニテ記號スル事ヲ練習シ漸次「テキハユウセーナリ」「ホーヘイハヲラズ」等ノ複雜ナル文章ヲ綴ルニ至ラバ第二節ノ要領ニ依リ相互通信ノ歩ニ入ル可シ

○第二節　通信

通信セント欲スルモノハ先ツ起信符(D)ヲ送リ應信者ノ受信符(G)ヲ以テ應シタル後送信ス

而シテ假名一字ヲ送信スル毎ニ毎字關節(A)ノ姿勢ニ移リ全文通信了リシ時ハ止信符ヲ送ル(F)而シテ應信者ハ應信符ヲ以テ(H)了解ノ意ヲ示ス

濁音(バビブベボノ類)又ハ半濁音(パピプペポ)ノ文字ヲ通信スルトキハ先ツ清音(ハヒフヘホ)ヲ送リ次ニ濁音符(B)又ハ半濁音符(C)ヲ送ル可シ

送信中誤謬アルトキハ消信符(E)ヲ通シテ後正誤ノ新文字ヲ通信スヘシ

應信者ニ於テ疑ハシキ文字アル時ハ消信符ヲ送リ其文字ヲ復送セシム

長キ通信文ニハ送信者ハ句切符(I)ヲ送リ應信者其意味ヲ了解セハ又句切符ヲ返信ス而シテ後次句ノ文句ニ移ルモノトス

送信者句切符ヲ送リタルトキ受信者其文句ヲ解セザレバ句切消信符(J)ヲ送ル然ルトキハ送信者又句切符ヲ送リ更ニ其句ヲ復送ス

○第三節　通信ノ例

(イ)　最モ簡單ナル往復(△ハ毎字間節●濁○ハ半濁音ヲ示ス)

甲起信符→　イ三三△　マ九五△　ユ九一△　ク三三△　←止信符
乙受信符←　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→應信符

發信　今　行ク　「イマユク」

(ロ)　濁音アル場合

發信　トホデコイ(徒歩デ來ヒ)

甲起信符→　ト二　ホ五　デ一二　コ〇二六●　イ八一△　三二△　←止信符
乙受信符←　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　→應信符

(ハ)　一字消信ノ通信

發信　敵ヲ見ズ　テキヲミズ

甲起信符 → 乙受信符

テ 一二六△ 一三三△ ?

消信符 → 消信符

キ 一二三△ ヲ 一九△ 一二△ ミ

ズ 一三五●△ 止信符 → 應信符

（二）句切符ヲ送ル場合

發信　敵ノ砲兵ハ今陣地進入中ナリ

テキノ」ホヲヘイワ」イマヂンチシンニ――」チ

ユ――ナリ」

甲起信符 → 乙受信符

テ 一二六△ キ 一二三△ ノ 三 句 ホ 三〇△ ヲ 一九△ 四△ へ 三二△ イ 符切

ワ 二九△ 句切 イ 符三二△ マ 九五△ 句切 ヂ 符七二●△ ン 五一△ チ 七二△

シ 五七△ 五一△ ン 一一△ 句切 チ 符七二△ ― 一三 ナ 二二△ リ

止信符 → 應信符

（ホ）句切消信符ヲ用ユル場合

發信　今ヨリ渡河ヲ始ム「イマヨリ」トカヲ」ハ
ジム」

甲起信符→
←乙受信符

イ　三二△
マ　九五△
ヨ　八一△
リ　二二△
ト　二五△
カ　八三△
ヲ　一九△
句切符

句切符→
←消信符
句切符

ヲ　一九△
ハ　○△
ジ　七二●
ム　△七五
ル　△二七△
カ　二五△
ト　八三△
ヲ　一九△
句切符

止信符→
←應信符

○第四節　通信所

(一)　通信所ノ位置

通信所ハ一般左ノ要領ニ準ズベシ

一　互ニ明瞭ニ認識シ得ルコト
二　成ル可ク敵眼及敵彈ヲ遮蔽スルコト
三　通信所ハ其所屬部隊ニ接近スルコト
四　附近ノ地物ハ後方ノ景況日光ノ關係ヲ注意スルコト

(二)　通信上ノ注意

一　距離ハ聲音達シ又ハ駈歩ニテ通信スルヨリ信號ノ方

速カナル可キ距離ニ非ザレバ効少シ斷絶地ハ特別ナリ

二　距離增加セバ速度ヲ緩ニスルヲ要ス

三　肉眼ニテ認識シ難ケレバ眼鏡ヲ使用スヘシ

四　距離遠ケレバ遞信號哨所ヲ以テ信號ス

（三）遞信號哨所

人員三名內一名ハ信號手一名ハ筆記者一名ハ傳令ニ任ズ

中間信號所ニハ二名（信號手及筆記者）ニテ可ナリ

又時ニ依リ一名ツヽニ減スルコトアリ

信號所ノ距離ハ互ニ七八百米突ヲ適當トス

發信者ハ傳令使ニ書簡ヲ渡シ

甲信號所ノ筆記者（讀方）ハ之ヲ一字毎ニ讀ミ信號手ハ讀マレシ假名ヲ送信ス乙信號所ノ信號手ハ之ヲ受信シテ讀ミ筆記者ハ之ヲ筆記ス次テ丙ニ送信丙又丁ニ送信シ丁ノ筆記者ノ筆記シタル報告紙ヲ丁ニ有ル受信者ニ呈ス

下士卒 軍隊內務解說

正價 金拾五錢
郵稅 金貳錢

新軍隊內務書は事項細密に渉り上は隊長より下一兵卒に於ける營內勤務上及び起居に關する定則を網羅しあるを以て兵卒として之を研定するも又下士上等兵候補者等の教育資料と爲すも其必要なる部分を判讀摘出する事至難の業に屬す故に本書は直接下士以下諸士の爲め必要欠く可らざる部分のみを某將校に囑して拔萃し字句に解釋傍訓を附し加ふるに一々標題を設け其研究の便に供す幸に下士卒以下諸君特に上等兵候補者諸君の購讀を乞ふ

◎下士野外必携

正價 金八錢
郵稅 金貳錢

下士上等兵候補者諸君の爲め野外勤務及び戰鬪動作の大要を簡易親切に說述したるものなり

◎下士上等兵候補者 修業手簿

正價 金拾參錢
郵稅 金四錢

本書は下士上等兵候補者諸君が修業上恰好の記錄簿にして諸表及學術科の要點をも記入しあり後日に至りて又良參考書となるものなり

武將の典型 野津元帥の面影

四六判美本
正價 金貳拾五錢
郵稅 金四錢

武人中の武人、名將中の名將たる故野津元帥の一生は實に我軍國史の一部にして其半面は確かに活ける立志談、精神教育の好資料たり本書は元帥の美談逸事と諸名士の元帥談を蒐錄したるもの眞に座右の好侶伴なり

岩滿大佐殿序
梅田少佐殿序　田家松軒君編

軍事小說 熱血

菊判金文字入
正價 金拾八錢
郵稅 四錢

本書は日露大戰役に於ける國民義勇奉公の實際を描寫したるもの壯烈悲慘痛快の狀紙上に躍如たり眞に士氣振作の好資料として大方の一顧を待つ切なり

發行所　東京市麻布區霞町四番地
皆兵舍
（振替貯金口座東京壹六參五壹番）

毎月十五日發行（記事豐富趣味津々寫眞數葉挿入）

軍人世界

一部 前金拾錢
郵税 金壹錢

軍人世界は精神界の酒保なり
軍人世界の讀者は善良なる軍人なり
軍人世界は軍人の必ず讀むべき好雜誌なり

發行所 東京市麻布區霞町四番地
軍人世界社

216
705

明治四十二年五月十日印刷
明治四十二年五月十三日發行

正價 金拾錢

不許複製

著者兼發行人 東京市麻布區霞町四番地 藤田友三郎
印刷人 東京市芝區櫻川町十七番地 山田三次郎
發行所 東京市麻布區霞町四番地 皆兵舍
振替口座壹六參五番壹
賣捌所 東京市日本橋區通三丁目七番地 武揚堂
振替口座四六四壹番

特53
251
号令調声手旗信号 教科書
国立国会図書館

051450-000-8

特53-251

号令調声手旗信号教科書

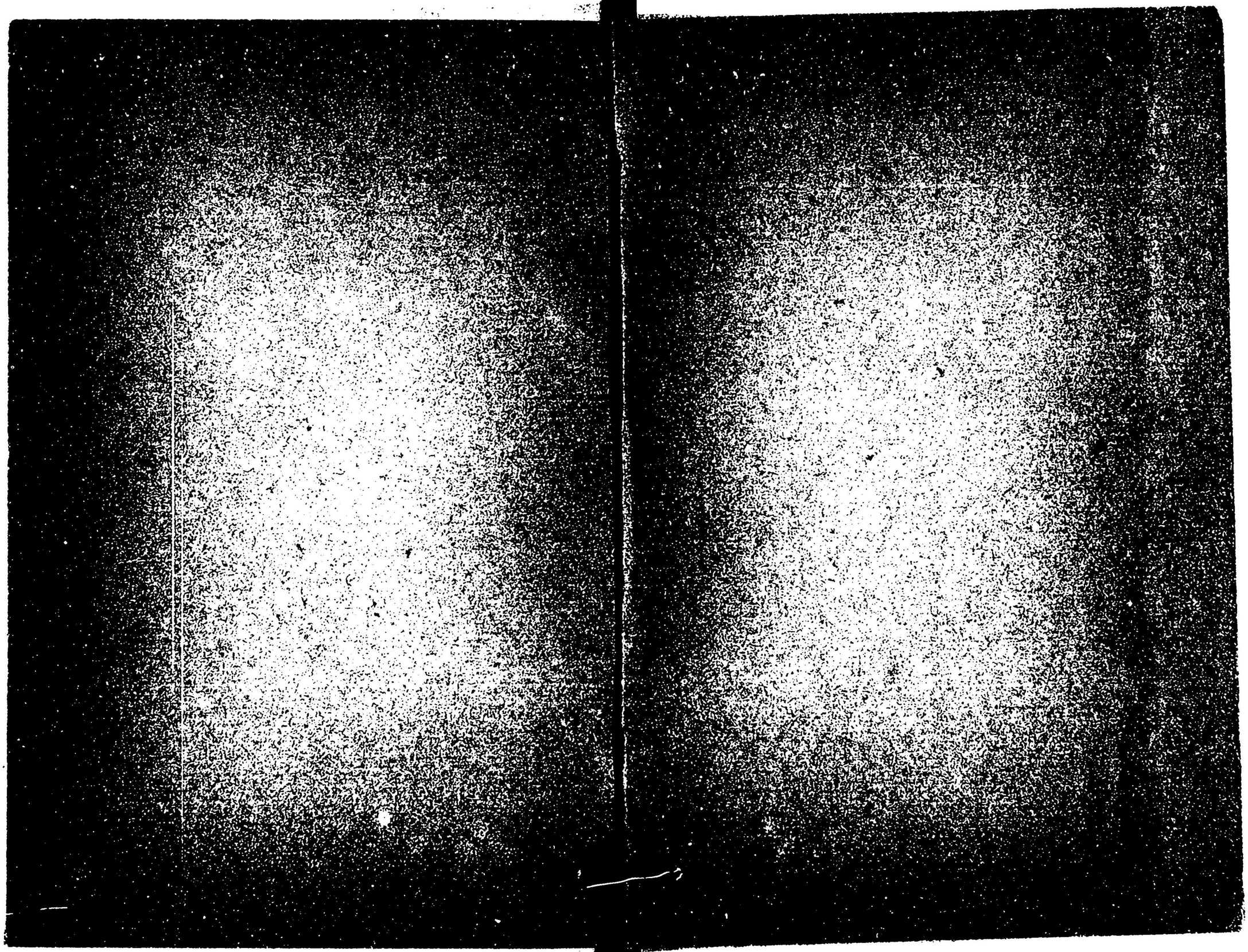
皆兵舎

M42
BFB-0174

陸軍教科書

陸軍兵舍發行

216
F95



特53
251